

平成 26 年度

第 3 回細胞検査士会役員会 議案書

1 号議案 平成 26 年度各種委員会事業報告 (pp1-20)

2 号議案 平成 26 年度収支決算 (p21)

3 号議案 平成 27 年度事業計画 (pp21-24)

4 号議案 平成 27 年度予算 (p24)

5 号議案 監事の選任 (p24)

6 号議案 各委員会提出議案 (p24)

資料、他(別ファイルとして用意)

日時： 平成 27 年 6 月 12 日 (金) 14 : 00-15 : 00

場所： ホテル一畑 1F サンシャイン B

1. 平成 26 年度各委員会事業報告

平成 26 年度 本部事業報告

細胞検査士会

会長 石井 保吉

細胞検査士会が日本臨床細胞学会の内部組織となって 2 年目の本年は、選挙の年であった。細胞検査士会役員選挙および日本臨床細胞学会理事選挙が行われた。特に後者は、これまで技師会員として区別されていた細胞検査士評議員が、学会の公益社団法人化により正会員として選挙に立候補した初の選挙であり、この選挙により 3 名の細胞検査士が当選したことは、歴史的な出来事である。

I. 細胞検査士会役員選挙

平成 26 年 6 月 30 日、才藤純一委員長と 10 名の委員による選挙管理委員会が設置され、平成 27 年度～28 年度の細胞検査士会役員選挙が行われた。幹事選挙は平成 26 年 9 月 20 日開票が行われ、立候補者 43 名のうち、31 名が選出された。引き続き会長、副会長選挙が行われ、10 月 25 日開票の結果、次期会長に伊藤仁、副会長に小松京子、片山博徳が選出された。

日本臨床細胞学会の公益社団法人化により各都道府県細胞検査士会が建前的に別組織になったが、今回の役員選挙をみたかぎり、都道府県代表者委員会を中心とした取り組みにより、これまで同様にしっかりと機能していることが確認された。

II. 日本臨床細胞学会評議員選出および理事選挙

細胞検査士会役員選挙とほぼ並行して、平成 27 年度～28 年度の日本臨床細胞学会評議員選出、理事選挙が行われた。評議員は業績順に 444 名（正会員の 8%以内）が選出され、うち細胞検査士は 66 名であった。444 名の評議員の中から、全国区理事選挙が行われ、22 名の理事が選出された。その後、引き続き地方区理事選挙が行われ、15 名の理事が選出された。選挙により選出された細胞検査士理事は、全国区 22 名中 3 名であった（地方区 0 名）。今回の選挙は技師会員として区別されていた細胞検査士評議員が、学会の公益社団法人化により正会員として選挙に立候補した初の選挙であり、この選挙により 3 名の細胞検査士が当選したことは、細胞検査士会としては歴史的な出来事であった。

これまでの細胞検査士理事は、理事長推薦の理事として細胞検査士会会長と副会長が宛職的に任命されてきた。長らく専門医と細胞検査士は車の両輪にたとえられてきたが、やっと本当の意味での両輪となるべく、そのスタート地点に立つことができたと考えられる。しかしながら、全国区、地方区合わせて 35 名ほど選出される理事の中で、細胞検査士はわずかに 3 名であり、学会運営の側面からは車の両輪と呼ぶにはまだまだ程遠く、第一歩を踏み出したに過ぎない。細胞検査士は日本臨床細胞学会の運営にもっと関与するべきであり、学会内での影響力・発言力を高めるためにも今後もさまざまな機会を通じて、正会員としての登録をお願いし、評議員、理事を輩出することが重要である。

III. 教育活動

昨年度、日本臨床細胞学会細胞検査士ワークショップの実施委員長を初めて細胞検査士が務めたが、本年度も大阪と高松において開催された第 68 回と第 69 回細胞検査士ワークショップの実施委員長を細胞検査士が務め、それぞれ盛会裏に終えることができた。日本臨床細胞学会主催の事業において、細胞検査士教育セミナーおよび細胞検査士養成講習会（2 週間コース）は 2007 年から細胞検査士が実施委員長を務めているが、順調に企画・運営され、実績を確実に積み重ねつつある。

IV. 公益活動

細胞検査士会が積極的に協力している Love49 による子宮頸がん検診の啓発事業に関して、今年度から各都道府県の連携組織（各都道府県臨床細胞学会あるいは旧支部会）を通じて日本臨床細胞学会へ支援金（5 万円を上限とする）を申請できるようになった。平成 26 年度は 38 都道府県から各 5 万円

の申請がなされ、各連携組織を通じて配布された。日本臨床細胞学会が行う事業はすべて公益事業と認められているが、その中でも全国の各都道府県細胞検査士会と細胞検査士会渉外委員会を中心としたこの活動は、一般市民への直接的公益性が高い事業として引き続き積極的に推進し、検診の重要性について一般市民への啓発をますます活発化していく必要がある。

V. 委員会活動

各委員長による委員会報告に詳細が記載されているので割愛させていただき、細胞検査士会創立 50 周年記念事業に関してのみ記述する。50 周年記念事業は、2017 年に開催することは決定しているが、春期大会時（大阪）か、秋期大会時（未定）かは、松江で開催される第 56 回日本臨床細胞学会春期大会の理事会で決定する 2017 年秋期大会の大会長（場所）の結果をみてから決める予定である。

昨年度、50 周年記念事業準備委員会に設置された記念式典準備小委員会、功労賞選考準備小委員会、公開講座準備小委員会、記念誌発刊準備小委員会、検査展準備小委員会、予算準備小委員会は、今年度からそれぞれ具体的な企画検討がはじまり、現在まで順調に進行している。次年度は、さらにシフトアップし、次世代へつなげるようできるだけ多くの会員に出席していただくための様々な企画について検討しなければならない。

1) 平成 26 年度総務委員会事業報告

活動実績

1. **第 1 回役員会の議案書作成。**
第 55 回 春期総会時 6 月 5 日～6 月 7 日（神奈川）
2. **総会準備（庶務委員会、経理委員会との共同作業）**
第 55 回 春期総会時 6 月 5 日～6 月 7 日
3. **第 2 回 役員会の議案書作成。**
第 52 回秋期大会 11 月 7～8 日（山口）
4. **第 1 回（H27 年 2 月 16 日） 委員長会議の開催準備**
 - 1) 会場準備
会議に係る事項については経理、庶務委員会との共同作業
 - 2) 議案書の作成
各委員会からの議案内容を確認し会長の最終確認後に作成
5. **会員の質問に対する対応。**
特に資格更新に関する質問が多かった。
6. **チーム医療推進委員会活動。（H26 年 4 月 1 日～H27 年 3 月 20 日）**
広報ワーキンググループとのメンバーとして活動。
メディネットコンテンツ製作事業
Facebook ファンページへの移行事業
アクセス解析によるマーケット調査
HP のバナー変更事業等

総括

1. **各部門からの事業計画と事業報告の収集・管理及び委員、役員などからの提案事項の各委員会への振り分け。**

2 年目であり各委員会間のコミュニケーションは良好であった。

ML（特に委員長 ML）の障害に対しては次期の情報委員会で改善される。

2. HPからの会員質問に対する対応

特に資格更新に関する質問が多く寄せられ、対応に関しては1～2日で返信作業を行った。（対応が遅いというコメントは無かった）

3. 役員会の議案書作成、委員長会議の開催地の決定および議案書作成

今年度も検査士会では規則類の整備等の重要課題があり総務委員会の活動の中心になっていた。

成果：1）会場確保から会議に関する細かな準備に関しては問題なく対応ができた。

2）関係する委員会との連携は良好であった。

次回への課題：

1）議案書の配信を早くする。（1週間前の配信ができなかった）

2）会議の開催に関しては別に対応する人的な補充が必要である。

4. チーム医療推進委員会活動

成果：1）チーム医療推進協議会に入会后6年が経ち（現在18団体加盟）チーム医療協議会のHPからも細胞検査士について国民、医療関係者への啓蒙は十分になされていると感じる。

2）保険の改訂時に外来加算の要求に細胞検査士の名称が入っており継続した活動の成果が認められている。

課題：この協議会から細胞検査士について広範囲に広報する必要がある。

（文責：片山博徳）

2) 平成26年度庶務委員会事業報告

1. 庶務委員会の業務に沿った活動

- (1) 総会、役員会等の開催・運営
- (2) 役員会・各種会議の議事録作成・保管
- (3) 会員名簿の管理公印の使用及び管理
- (4) 公印の使用及び管理
- (5) 資料の保管
- (6) 慶弔

2. 庶務委員会各委員の担当業務

仲村（委員長）

- ・庶務業務の統括
- ・会印の管理
- ・役員委嘱状の発行
- ・講師等委嘱状の発行
- ・子宮の日趣意書の発行
- ・議事録案の確認、HPへの掲載依頼
- ・庶務委員会事業計画・報告の立案
- ・庶務委員会の出納簿管理・報告

- ・庶務委員会予算案の立案
- ・慶弔対応

羽原委員

- ・委員長補佐
- ・役員会の出欠席確認
- ・役員会運営補佐
- ・委員長会議運営補佐

笹井委員

- ・役員会運営補佐
- ・委員長会議運営補佐
- ・議事録作成

小山委員

- ・役員会運営補佐
- ・委員長会議運営補佐
- ・議事録作成

丸田委員

- ・役員会運営補佐
- ・委員長会議運営補佐
- ・議事録作成

3. 庶務委員会の主な業務の統括

- ・議事録作成：昨年度は議事録作成にあたり、議案内容、議案審議結果、意見・質問等と議案に対する審議結果を簡明に記述してわかりやすいようにした。
また、各委員には数時間にもおよぶ会議の議事録作成にあたり、献身的な努力により無事議事録作成ができたことに感謝致します。
庶務委員一人議事録作製にあたり、方針が異なる為に議事録作製に協力していただけなかったのは残念であった。
- ・子宮の日趣意書：pdf ファイルで都道府県代表者 ML リストに配信した。
- ・予算案：今年度は予算案に対してほぼ同額の支出となった。27年度は新役員の委嘱状の発送など通信運搬費がかかり、予算を増額した。
- ・委嘱状：学術のセミナーなど多くの講師、実務委員に委嘱状を発行した。今回また、都道府県代表者会議に出席する都道府県代表者にも会議出席の依頼状を発行した。
できるだけ、早く委嘱状などを送付して役員、都道府県代表者の方々が施設の認可を得られるようにした。

(文責：仲村 武)

3) 平成 26 年度経理委員会事業報告

- (1) 平成 25 年度各委員会の収支報告書、証拠書類（領収書等）を確認し、細胞検査会会計報告書を作成。(4 月 4 日、日本臨床細胞学会事務局に於いて)
- (2) 細胞検査士会会計報告書を会長に報告後、細胞検査士会監事による会計および業務監査を受けた。(4 月 6 日、日本臨床細胞学会事務局に於いて)

- (3) 監査終了後、監事より会計監査報告書、業務監査報告書を受領し、会長に提出。会計に関する資料および事業報告書、業監査報告書を学会へ送付。
- (4) 会長に代わり役員会、総会および会報などに会計報告実施。
- (5) 学術委員会の会計状況を整理するために学会事務局と打ち合わせ実施。
(9月12日、日本臨床細胞学会事務局に於いて)
- (6) 国際委員会が企画する第7回日、台、韓セミナーに於ける会計方法の打ち合わせ実施。(2月26日、日本臨床細胞学会事務局に於いて)
- (7) 平成26年、各委員会会計実施の現状
立て替え金請求を実施した委員会
 本部会計、経理委員会、渉外委員会、情報委員会、精度保障委員会、学術委員会、編集委員会、庶務委員会
仮払金請求を実施した委員会
 学術委員会(第5回 乳腺・消化器 画像WS：札幌)、(養成WS：大阪、東京)
 国際委員会(第7回日、台、韓セミナー)
学会から直接経費(請求金)を支払った委員会
 編集委員会、総務委員会、本部会計、渉外委員会、経理委員会、情報委員会、国際委員会
- (8) 細胞検査士会 平成27年度(2015年)予算案作成、
会長に提出、委員長会議、電子化を用いた役員会に報告

(総括)

法人化に伴い会計方法が変わり、その運用は2年目になりました。現在の会計方法の利点は、現金の出納が学会事務局で実施されているため、年度始め～総会までの間であっても各委員会の予算執行は暫定的に可能になっています。(以前は予算が入ってくる6月末までは活動が難しかった。) それに対し不便な点は、各委員長の手元に現金予算がない分、立て替え金による処理などが多くなっているのも現状です。この点については、委員長の負担軽減を目指すべく今後の会計方法について更に検討が必要です。

細胞検査士会ワークショップ(以下WS)は本会の事業費として収支が行われています。担当する学術委員会においては、前年よりも計画的に会計をしていただいた事により、その精算も正確かつ少しずつ速くなっています。学術委員会の会計を担当された皆様のご努力は甚大と考えます。今後もより良い会計の方策(利便性)を学会事務局と相談しながら検討を行う必要があると考えます。

50周年記念事業については現在、学会で専用の準備口座を作成してもらい管理されています。そして現在までの50周年記念事業準備委員会の支出は本部経費で賄っておりますが、少なくとも開催の1年前には具体的な予算の作成が必要となり、一般の会計とは別に管理してゆかなくてはならないと考えます。大きな記念となるイベントであり、沢山の会員の皆様が参加しやすい方策を考えなくていけない事と考えます。そのためには極力、早い時点で具体性のある50周年記念事業の予算案作成が必要と考えます。学会および会計事務所と綿密に相談し、計画的に会務を実施することが重要と考えます。

(文責：大塚重則)

4) 平成26年度学術委員会事業報告

平成26年度活動報告

1) 平成26年5月10日(大阪)

第67回・68回 細胞検査士教育セミナー セルフアセスメント
問題作成会議

- 2) 平成 26 年 6 月 5 日～7 日（横浜）
 - 第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
 - ・細胞検査士会要望教育シンポジウム（WHO 分類と組織像・細胞像—呼吸器・膵臓—）
 - ・ヤングコミッティー（穿刺材料標本作製法の工夫）の実施
 - ・ヤングポスターセッション「わからん会」
- 3) 平成 26 年 6 月 21 日・22 日（札幌）
 - 第 5 回「画像所見と細胞像 乳腺と膵臓」ワークショップを実施
参加人数 66 名（講義のみ 13 名）
- 4) 平成 26 年 8 月 9 日（大阪）
 - 平成 26 年度 細胞検査士養成ワークショップ 問題作成会議
- 5) 平成 26 年 8 月 30 日・31 日（東京）
 - 第 67 回 細胞検査士教育セミナーの実施協力
 - ・セルフアセスメント（精度保証委員会と連携）
 - ・ワークショップ（呼吸器新 WHO 分類と臨床・組織像・細胞像）
- 6) 平成 26 年 9 月 6 日・7 日（大阪）
 - 第 68 回 細胞検査士教育セミナーの実施協力
 - ・セルフアセスメント（精度保証委員会と連携）
 - ・ワークショップ（呼吸器新 WHO 分類と臨床・組織像・細胞像）
- 7) 平成 26 年 9 月 13 日・14 日（大阪）
 - 細胞検査士養成ワークショップ
参加人数 105 名
- 8) 平成 26 年 9 月 20 日・21 日（東京）
 - 細胞検査士養成ワークショップ
参加人数 87 名
- 9) 平成 26 年 11 月 7 日～9 日（下関）
 - 第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会における
 - ・細胞検査士会要望教育シンポジウム（婦人科材料 LBC 法導入後の動向について）
 - ・ヤングコミッティー（FNA 標本作製の工夫と細胞像）
- 10) 平成 27 年 1 月 10 日・11 日（大阪）
 - 第 1 回・2 回「画像所見と細胞像 呼吸器と消化器（唾液腺・膵臓等）」
ワークショップ実施
第 1 回 参加人数 36 名（講義のみ 4 名）
第 2 回 参加人数 22 名
- 11) 平成 27 年 1 月 24 日・25 日（東京）
 - 第 3 回・4 回「画像所見と細胞像 呼吸器と消化器（唾液腺・膵臓等）」
ワークショップ実施
第 3 回 参加人数 47 名（講義のみ 3 名）
第 4 回 参加人数 62 名（講義のみ 3 名）

学術委員会総括

学術委員会では毎年、細胞検査士養成と細胞検査士生涯教育を目標とし、企画・実施している。

H26 年度は「細胞検査士養成ワークショップ」「細胞検査士教育シンポジウム」を中心に、「ヤングコミティー」の充実をはかってきた。若い細胞検査士さんの発表の機会を増やす企画だが、今年度は春・秋通して「穿刺材料標本作製の工夫と細胞像」をテーマとした。各施設で様々な工夫がなされ、質問も多く、若い検査士さんは舞台上でドキドキ状態であった。いい機会であったのではないかと考える。今年度、「ヤングコミティー」は若い細胞検査士で「企画から発表まで」を目標にしていたが、時間が足りず発表だけになってしまった。

「わからん会ポスター」も新人細胞検査士には好評である。発表前に予演ができることで安心感があるようだ。今年度は春の学会だけの企画になり反省している。「秋はないのですか?」「申し込もうと思っていたのに・・・」の声も聴いた。学会長と早くからコンタクトをとり、定着することを望む。

「細胞検査士養成ワークショップ」も3年目になり、症例内容など様々に変化させている。今年度は経験により各自で選択できる内容（解答をみながら検鏡する人、解答を渡さないで検鏡する人など）にした。講義・実習・スライド問題・検鏡問題と盛り沢山のため、細胞診を始めたところの人は理解不足になると反省している。また、連休を利用して開催しているが、反対に宿泊施設の確保や値引き率が低いなどの問題点も指摘された。大阪・東京と続けてきたが開催地域の検討も必要と考える。今回、アトラスが50部以上残り（印刷の関係で100単位とするため）、このアトラスを使い、来年度になるが4月「地域支援ワークショップ」を金沢で「初心者細胞検査士養成ワークショップ」として開催する。今年度は「地域支援ワークショップ」は開催できなかった。

細胞検査士生涯教育のワークショップは昨年度に引き継ぎ「画像と細胞像」とした。内容は呼吸器・消化器（唾液腺・膵臓）領域で、呼吸器では「新WHO分類」の解説も入れた。今後、画像を理解することは細胞診・組織診断に欠かせなく、受講した検査士からも「画像をみて説明してもらい良かった。」との声があった。ただ、他に多くの企画があるため、準備の関係から年始開催（大阪）となり、慌ただしく参加人数が伸び悩んだ。企画した時点から準備を開始し、開催時期、開催地の見直しが必要と思われる。今年度も6月に昨年度の続き（アトラスが残ったので）として「画像と細胞像 乳腺・消化器（胆膵）」を札幌で開催したが好評であった。来年度も今回のワークショップのアトラスで開催予定（熊本）である。

細胞検査士教育シンポジウム、セミナーでのワークショップはWHO分類を中心とした企画にした。特に呼吸器、膵臓など新しいWHO分類の解説と臨床との関わり、組織像、細胞像など総合的内容にした。また、LBC 検体普及のための動向にも注目した。実践に即した内容で良好であったと思われる。

全体とし、企画内容に大きな問題はないと考えるが、日程、開催地など反省すべき事がある。

（文責：竹中明美）

5) 平成 26 年度都道府県代表者委員会事業報告

1. 都道府県代表者会議

- ① 都道府県代表者会議を2度開催した。
- ② 選挙管理委員会からの細胞検査士会役員選挙に関する連絡を都道府県代表者に行った。MLを使用した。返信がない代表者には電話連絡も行った。
- ③ 毎月1日を原則として定期的連絡をMLにて行うことが承認された。
- ④ 細胞学会・細胞検査士会・都道府県からの連絡・アンケートなどMLにて行なった。

2. 都道府県代表者委員会

- ① 日本臨床細胞学会時に都道府県代表者委員会を行った。
毎月連絡日を決め、MLにて行うことを提案することを決定した
- ② 都道府県代表者の名簿を作成し、連絡網を作った。
- ③ 都道府県代表者会議の議案・議事録作成を行った。
- ④ 都道府県代表者会議の受付・進行と議事録作成。
- ⑤ MLを活用し、細胞学会・細胞検査士の会の情報送受信・アンケート回収・選挙の連絡等を行った。

(文責：小松京子)

6) 平成 26 年度規約委員会事業報告

1) 細胞検査士会における時系列活動実績

1. 平成 26 年 6 月 5 日 (木) 第 1 回役員会への議案提出
 - 「公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞検査士会に関する施行細則」の変更
 - 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会 役員選任規程」から
 - 「細胞検査士会 役員選任に関する細則」への変更 (総務)
 - 「細胞検査士会 平成 27-28 年度役員選挙実施要綱」の制定
 - 「役員会に関する運用細則」から
 - 「細胞検査士会 役員会運営に関する細則」への変更 (庶務)
 - 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会 委員会施行規程」から
 - 「細胞検査士会 委員会に関する細則」への変更 (総務)
2. 平成 26 年 6 月 7 日 (土) 平成 26 年度細胞検査士会総会への議案提出
 - 「公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞検査士会に関する施行細則」の変更
3. 平成 26 年 11 月 8 日 (金) 第 2 回役員会への議案提出
 - 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会会計処理規程」から
 - 「細胞検査士会会計に関する細則」への変更
 - 「会計処理規程運用細則」から「細胞検査士会会計に関する運用細則」への変更
 - 「各委員会の会計処理指針」から
 - 「細胞検査士会各委員会の会計処理要綱」への変更
 - 「経理委員会の会計処理指針」から「経理委員会会計処理要綱」への変更

2) 業務目標、結果、成果、反省

結果

可決成立

- 「公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞検査士会に関する施行細則」の変更
- 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会 役員選任規程」から
- 「細胞検査士会 役員選任に関する細則」への変更 (総務)
- 「細胞検査士会 平成 27-28 年度役員選挙実施要綱」の制定
- 「役員会に関する運用細則」から
- 「細胞検査士会 役員会運営に関する細則」への変更 (庶務)
- 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会 委員会施行規程」から
- 「細胞検査士会 委員会に関する細則」への変更 (総務)

継続審議

- 「日本細胞診断学推進協会細胞検査士会会計処理規程」から
- 「細胞検査士会会計に関する細則」への変更
- 「会計処理規程運用細則」から「細胞検査士会会計に関する運用細則」への変更
- 「各委員会の会計処理指針」から
- 「細胞検査士会各委員会の会計処理要綱」への変更
- 「経理委員会の会計処理指針」から「経理委員会会計処理要綱」への変更

業務目標

役員会にて承認された新規規則類の管理を行う、また各委員会から要望される規則類の新規制定

や改廃にあたり、細胞学会の定款、定款細則、施行細則などの規則類やその他制度との整合性を検討した上で役員会議題として提案していく。そして細胞検査士と細胞検査士会にとって、より良い規則類と制度が構築できるよう努力する。また役員会が一致団結して職務遂行していけることを希望する。

反省

改正できた規則類はわずかであった。各委員会の協力を得て改正作業を進めていきたい。

(文責：平田哲士)

7) 平成 26 年度編集委員会事業報告

平成 26 年度における編集委員会としては、第 56 号細胞検査士会報および第 57 号細胞検査士会報を発行した。

第 56 号では、恒例の検査士役員会の議事録をはじめ学術面では「甲状腺細胞診とベセスダシステム」の寄稿を頂いた。国際交流としては、「海外からの研修受け入れを通じて」と「第 6 回日・台・韓細胞検査士合同セミナーに参加して」を掲載した。

支部会リレーとしては、今回は宮崎県支部・岩手県支部から記事を頂き、それぞれの支部会での活動および県の観光スポットなどが紹介された。

本号からスタートした、「細胞検査士会創立 50 周年に寄せて」ではベテラン細胞検査士および新人の細胞検査士から寄稿を頂き、世代を超えて伝えたいことと題して掲載することができた。

第 57 号細胞検査士会報は、従来の路線を継承しながら今回は役員改選の時期にあわせ細胞検査士の次期会長・副会長から「抱負を語る」と題して寄稿頂いた。

細胞診専門医からも引き続き「My Style」に寄稿して頂いた。細胞検査士の中にも本業以外のすばらしい趣味をもっている方々も大勢いますので、シリーズとして今後も紹介できればと願っています。

反省点としては、細胞学会誌の電子ジャーナル化がスタートし、検査士会報に関しても WEB 化への切り替えの時期のきているかと思えます。ただし、すべての会員が WEB での閲覧が可能かとの懸念もあります。せめて検査士会報だけでも直接、各細胞検査士のお手元にお届けできればと思います。

(文責：上野喜三郎)

8) 平成 26 年度渉外委員会事業報告 (資料-1)

【事業計画】

Love49 の活動時にも配布可能な細胞検査士会リーフレットの作成

細胞検査士という職業を広報できるリーフレットの作成

ポスター展示：日本臨床細胞学会等の開催時

がん患者大集会等における共催活動

渉外委員会では、昨年度に引き続き Love49 担当委員とパンフレット作成担当委員に分かれ会務を遂行し、両副会長にはオブザーバーとして、情報委員会の小川委員長・藤井委員、編集委員会の藤田委員からご助言、ご協力頂いた。

Love49 担当委員：河原、青木、小川、山本、吉田、藤井、(オブザーバー：是松副会長)

パンフレット作成担当委員：河原、青木、深澤、廣井、田上、藤田、(オブザーバー：伊藤副会長)

1. 子宮の日の活動：2014Love49 プロジェクト (4 月) (渉外委員会添付資料 1)

今回は 39 都道府県 (83.0%) が参加した。ご協力ありがとうございました。

(2013 Love49 プロジェクト：38 都道府県、2012 Love49 プロジェクト：36 都道府県)
 北海道、岩手県、宮城県、山形県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県
 茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、愛知県、静岡県、岐阜県
 滋賀県、兵庫県、奈良県、大阪府、和歌山県、京都府、広島県、山口県、鳥取県
 岡山県、島根県、愛媛県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県
 宮崎県、鹿児島県、沖縄県
 子宮頸がん検診リーフレット（細胞検査士会作成；A4 両面カラー）を 5 万枚作成した。

**2. 平成 25 年度細胞検査士会公益広報活動調査（啓発・社会事業と育成・養成事業）
 （調査期間：4-5 月）（渉外委員会添付資料 2）**

平成 25 年度細胞検査士会活動調査は、【啓発・社会事業】と【育成・養成事業】に分けて実施した。
 （調査期間：4 月から 8 月）（回答率 100%）

○啓発・社会事業の報告（渉外委員会添付資料 1）

2013Love49 キャンペーン実施都道府県数：38 都道府県（80.6%）

総イベント数：96 イベント

参加者数：約 2177 名（細胞検査士 1034 名，医師 117 名，その他 1026 名）

○育成・養成事業の報告（渉外委員会添付資料 2）

開催数：111（複数開催した都道府県あり）

のべ受講生数：約 3080 名

講師：細胞検査士 655 名，医師 110 名

**3. 第 55 回日本臨床細胞学会総会および第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会（6 月，11 月）における
 パネル展示**

子宮頸がん検診委員会と共同で LOVE49 キャンペーンのパネル展示を行った。

担当者：山本秀巨 委員

4. 子宮の日全国アクション 2014 報告会（6 月）

第 55 回日本臨床細胞学会総会（横浜）において 2014LOVE49 報告会を実施し，細胞検査士と専門医
 から 5 演題を報告した。第 56 回日本臨床細胞学会総会（松江）においても 2015LOVE49 報告会を行
 うことが決定している。

**細胞検査士パンフレット「がん診断の担い手細胞検査士第 3 版」の配布
 （渉外委員会添付資料 3）（通年）**

3 月末までに，22 施設に 17,900 部数を郵送した。印刷部数と郵送費がある限り，随時継続してい
 く。また，ポスターを作成してリーフレット使用を促した。

5. 細胞検査士会ホームページへの Love49 活動関連ページの新設完了（2014. 4 月-2015. 11 月）

各都道府県における地道な活動が細胞検査士会ホームページを通して，より多くの人の目にふれる
 ように Love49（啓発活動）ページを開設した。

<http://www.ctjssc.com/love49.htm>

6. 第 10 回がん患者大集会の会場協力（11 月）

開催日：2014 年 11 月 3 日（月・祝）

メイン会場：広島中国新聞ホール，サブ会場：東京医科歯科大学

メイン会場では 8 名，サブ会場では 10 名の細胞検査士の方々にご協力頂いた。

7. 第13回子宮頸がん予防・啓発連絡会議への参加（11月）

2014年11月19日（水）に開催されました「第13回子宮頸がん予防・啓発連絡会議参加報告」と「乳がん・子宮頸がん企業検診実態調査報告会参加報告」に参加した。担当者：吉田志緒子 委員

8. 2014ニュースレター（マガジン）紙面の提供と協力（1月）

特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会が作成するニュースレター内に細胞検査士の仕事を知ってもらうための紙面を提供した。今回の執筆者は、子宮頸がん検診委員会のご協力により公益財団法人福岡県すこやか健康事業団福岡国際総合健診センター八尋裕美子さんをご推薦して頂いた。

9. 2015Love49プロジェクトの準備（2014.12-2015.3月）

2015 Love49 キャンペーンの趣意書発行を石井会長へ要望し、各都道府県へ庶務委員会から郵送して頂いた（平成26年10月1日付）。

2015年4月9日前後に、特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会と共に、子宮頸がん検診啓発活動を行うための準備を行っている。特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会は2015Love49全国アクションに関する後援を厚生労働省から得ている。（平成27年2月23日付）2015Love49キャンペーンで配布する細胞検査士会オリジナルポケットティッシュを作成「受けましょう、子宮頸がん検診」。

2015Love49 キャンペーン参加数：42 都道府県（89%）

平成26年度渉外委員会事業の総括

今年度の渉外委員会は、昨年度に引き続き学会時のパネル展示やがん患者大集会などへの参加協力を行った。子宮頸がん検診の啓発事業であるLove49キャンペーンでは、細胞検査士会からはじめての試みであるオリジナルリーフレット作成した。また、第55回日本臨床細胞学会総会（横浜）において2014LOVE49報告会をはじめて実施し、パネル展示と共に細胞検査士会の社会貢献を報告できていると感じる。さらに、細胞検査士会HPにおけるLove49活動関連ページを完成させたのは、非常に大きな成果であると思われる。

次年度の課題は、細胞検査士会HPにおけるLove49活動関連ページの充実です。多くの会員または一般の方々がHPをみて、「細胞検査士会が伝えたいこと」を感じて頂けるHPを作っていくたい。

（文責 河原明彦）

9) 平成26年度あり方委員会事業報告（資料-2）

1) 活動報告

7月：「細胞診陰性標本」に対するアンケート

細胞診陰性標本に対するアンケート調査を、都道府県細胞検査士代表者を通じ各県の施設にメールにて行った。アンケート結果の公開方法については検討中である。

8月：「公益社団法人日本臨床細胞学会の会員資格」についてのパイロットアンケートを第67回細胞検査士教育セミナー時に行った。アンケートの継続に関しては検討中。

9月：「細胞診陰性標本」に対するアンケート調査の一部を関東臨床細胞学会のシンポジウム「細胞診陰性報告の責任論 細胞検査士資格の将来像へのkey note」にて発表。（資料1）

2) 「細胞診陰性標本」のアンケートは紙ベースではなくwordで作成したものをmailにて行ったが、最終的な集計は手作業となってしまった。以前行ったホームページのアンケート機能の使用も視野

に入れるべきであった。

- 3) 以前、細胞診専門医会のあり方委員会と細胞検査士会のあり方委員会合同会議を行ってきたが近年中止していた。これは学会が公益法人化し、ある程度動きが沈静化し、法人化したうえで、新たな問題が発生すると考えたためである。必要に応じて再開を検討したい。
- 4) 公益社団法人内における細胞検査士会、細胞検査士の立場、方向性について再検討の時期であると思われる。

(文責 古田則行)

10) 平成 26 年度精度保障委員会事業報告

【時系列活動実績】

- ・平成26年度細胞検査士教育セミナー時におけるセルフアセスメントスライドおよびアンケート調査の作成・実施について
 - 3月4日～6日：精度保障委員会内でのメール会議を行い、本年度実施の第7回セルフアセスメントスライドの問題案の作成
 - 3月6日：学術委員長へ上記問題案を提出し、問題を作成する症例収集を依頼
 - 5月10日：第1回セルフアセスメントスライド会議
学術委員会と精度保障委員会合同会議
場所：大阪府立成人病センター
 - 問題作成案に基づき収集した症例から、最適な写真・選択肢を選出
 - 8月5日～19日：学術委員会および精度保障委員会でのメール会議
 - 8月18日：第67、68回細胞検査士教育セミナー実施委員長宛にセルフアセスメントスライド実施時に配付する資料について会場で配付・回収を依頼
 - 8月19日：学会事務局へ印刷物（問題用紙・アンケート用紙）の複写・配送を依頼（東京会場 1,000部、大阪会場 850部）および実施委員長との打合わせ
 - 8月30日：東京会場にて実施
回答用紙・アンケート用紙回収 425名分
 - 8月30日～9月3日：東京会場分の採点およびアンケートの解析
 - 9月3日：上記資料を学術委員長へ報告
 - 9月6日：大阪会場で実施
回答用紙・アンケート用紙回収 433名分 座長の尾崎委員に郵送依頼
 - 9月8日～24日：大阪会場分の採点およびアンケート用紙の受取り、解析および東京会場分との合算 計：858名分 採点結果 平均：20問中 14.3問（73.0%）最高点：100%
 - 9月26日：学術委員長へ上記資料の報告

【業務目標】

精度保障委員会の平成 26 年度事業計画として、

1. 細胞検査士教育セミナーでの第7回セルフアセスメントスライドおよびアンケート調査の作成・実施
2. セルフアセスメントスライド出題者への使用承諾依頼
3. セルフアセスメントスライドの貸し出し
4. 細胞診標本作製マニュアル新規作製および改訂・名称変更の検討
細胞診標本作製マニュアル「泌尿器」の見直し
細胞診標本作製ガイドライン「胆汁・唾液」（仮称）の新規作成
上記のため、作成小委員会の立ち上げを計画していた。

【結果】

1. 細胞検査士教育セミナーでのセルフアセスメントスライドおよびアンケート調査の作成・実施は、計画通り実行した。
2. セルフアセスメントスライド出題者への使用承諾依頼は、出題者の確認を含め現在学術委員長と調整中である。
3. セルフアセスメントスライドの貸し出しは、秋田県から第1回および第2回の貸し出し依頼があった。所定の手続きのもと貸し出しを行った。
4. 細胞診標本作製マニュアル新規作製および改訂・名称変更については、小委員会立ち上げのため、委員候補を選出中である。

【成果】

1. アンケート調査から大旨好評であると思われた。

【反省・その他】

1. 今回は細胞検査士教育セミナーでのセルフアセスメントスライド回答用紙・アンケート用紙の回収率が858名分と高かった。更に回収率を上げる努力をするとともに、集めたデータの解析を簡単に短時間で行える様な工夫を行いたい。また、できるだけ多くの会員に喜ばれる問題・解説を作成できるよう更に心掛けたい。
2. セルフアセスメントスライド出題者への使用承諾依頼は、できるだけ早期に調整を終え、使用承諾書の回収を行いたい。
3. セルフアセスメントスライドの貸し出しについては、会員からの貸し出し依頼が増えるよう広報に力を入れたい。
4. 細胞診標本作製マニュアル新規作製および改訂・名称変更については、小委員候補を早急に選出し、役員会の承認を得られるよう努めたい。

(文責 服部 学)

11) 平成26年度情報処理委員会事業報告

2014年活動履歴

- 4月 新CMSへの切り替えを実施
求人情報の管理ツールを更新
Love49活動関連ページを新設
- 5月 HPトップコンテンツのリニューアル
メニュー項目とトップページ写真を変更。
FTPサーバーのデータ移行
- 7月 掲載公開日の設定を変更
- 10月 サーバー及びドメイン管理を移行
- 11月 Internet Cytology : Joe'sクラウドコンピューティングとの年度契約更新
- 12月 株式会社トラパンツへ全面的にサーバー管理を移行

・HP掲載内容の整理

HP管理ツールCMSの更新を行い、コンテンツの情報管理がしやすくなった。また新着情報とお知らせの掲載には、掲載日を掲載し終了したものは削除するようにした。また年2回開催される総会前には、HPコンテンツの総合的な整理を行った。

結果：新しい記事をトップになるように工夫し、終了記事が自動的に削除され混在しないようになった。

- ・ **求人広告の掲載**

4月より広告依頼ページに依頼者の入力した情報が、掲載ページ一覧に直接反映されるように改善した。現在2名がモバイル通信を利用して迅速に対応している。

結果：本年度より、運用作業を簡素化し年間経費の節減を目的に半期毎の担当とした。

- ・ **Love49 活動関連ページを新設**

渉外委員会と協力して、Love49（啓発活動）を作成した。平成26年度 Love49 活動報告のPDFを掲載した。

結果：これまで積極的に活動が行われてない支部においても、参考にすることができるようにした。

- ・ **サーバー更新と管理ツールのバージョンアップ**

これまでのHP管理とインターネットサイトロジ及び役員メーリングリストの管理が3社に分散しそれぞれ別のレンタルサーバー会社で運用されていた。本年度は、HP管理ツールCMSのバージョンアップに伴い2社の管理契約に縮小した。

結果：2社の管理会社と契約更新した。2社に取り纏め、管理を簡素化した。今後は更に縮小し1社での管理に移行する予定である。

- ・ **運細胞検査士会HPガイドラインと掲載のルール化**

HP運用に関する方針を作成し、運用を明確にした。

結果：新体制における運用ルールの見直しを行った。

- ・ **学術情報を明確に掲載**

細胞検査士会主催セミナー・ワークショップと当会以外が主催する研修会を明確に分けた。

また後者での掲載申し込みに関しては、掲載申込書を作成し、会長・総務委員長の許可を得てから掲載するようにした。

結果：会長、総務委員長が研修会情報を把握しやすくなった。

- ・ **広報委員会と連携**

広報委員会と連携しレクチャー記事の掲載を行っている。特に広報担当者に負担が掛からないような運用を進めている。

結果：現在、会報学術記のPDF化カラー4記事掲載している。

(文責 小川勝成)

12) 平成26年度国際委員会事業報告

第7回日・台・韓細胞検査士合同セミナーについて

期日：平成27年3月21日

開催地：日本 福岡

会場：九州大学医学部コラボステーション I

【概要】

第5回までは日本と台湾の2か国による細胞検査士合同セミナーであったが、昨年、韓国が公式に加入し、2014年3月22日に、初の3カ国による第6回日・台・韓細胞検査士合同セミナーが実現した。よって今回の第7回日・台・韓細胞検査士合同セミナーは3カ国として2回目となる。セミナーの前日の20日に海外参加者の歓迎の意を込めて前夜祭を計画した。21日は第7回日・台・韓細胞検査士合同セミナー及びwelcome partyを行った。3国代表者会議はセミナーの昼食時間を利用してランチョンミーティング形式で行った。22日に博多一日観光を計画し、韓国の参加者と共に福岡の市内観光を行い、夕刻に解散した。

【内容詳細】

1) 前夜祭「博多百年蔵」

本来、セミナー前夜は海外参加者を囲んでのWelcome partyであるが、台湾一行の到着時間が深夜であり、参加が困難ということで前夜祭と改称し、「博多百年蔵」にて小宴を開いた。参加者は韓国が24名、日本が39名の計63名であった。「博多百年蔵」は百年間使われた酒蔵を改築してつくられた飲食店であり、古風な建築と、伝統的な手法で醸造された清酒にて韓国の参加者を歓迎した。

2) 第7回日・台・韓細胞検査士合同セミナー

9:30より開会し、17:00に閉会した。

参加者は台湾より12名、韓国より21名日本より69名の合計102名であった。

演題数は特別講演および一般講演を含め18題であり、活発な質疑応答が展開された。

一般演題1と2の間に、「NPO法人Cancer Support」の宮部氏をお招きし、癌経験者としての体験談をご講演頂いた。癌患者と二人三脚で活動する日本の細胞検査士の活動の紹介およびアピールとなった。今回の特別講演のテーマは細胞検査士の教育についてであり、九州大学の杉島教授には、九州大学における教育について、台湾のYu-Lin Ko氏には台湾とオーストラリアにおける教育について、そして韓国のNo-won Park氏には、韓国およびモンゴルにおける教育の現状についてご講演を頂き、国際色豊かなセミナーとなった。

3) 国代表者会議

3国代表者会議はセミナーの昼食時間を利用してランチョンミーティング形式にて行った。参加者は、日本から石井氏、小松氏、芦田氏及び南部の4名、台湾からは、Ko Jen-Sheng氏、Wu Mei-Ling氏、Lee Yi-Ju氏、Wen Chien-Hui氏の4名、韓国からは、Hwa-Jeong Ha氏、No-won Park氏、Jong-yull Kim氏、Dae-hyun Hwang氏の4名の計12名で、以下の4議案について審議した。

(1) 日・台・韓細胞検査士合同セミナーの主旨

第6回日・台・韓細胞検査士合同セミナーにおける代表者会議にて承認されていたが、今回再度確認した。

(2) 新加入国の可能性について

現在は日本、台湾、韓国の3国であるが、将来はこのセミナーがアジア全体へ拡大する可能性もあり、新たに加入の申し込みがあった場合は、3カ国による協議およびコンセンサスの元に決定する。

(3) 次期開催国および開催日について

次期開催国は台湾に決定した。しかし2016年5月にIACが横浜で開催されるため、2016年の日・台・韓細胞検査士合同セミナーは2017年に延期することになった。

従来の日・台・韓細胞検査士合同セミナーの開催日は3月の年度末で決算時期であり、時間的に厳しいため、少し早目の開催が提案され承認された。開催については2月もしくは3月の上旬を候補として、後日3国メール会議にて協議することになった。

(4)開催費用について

基本的には、会費により賄う。会を盛大にすることが目的ではなく、継続が目的であるので、予算に見合った無理の無い企画をする。

4) Welcome party

日・台・韓細胞検査士合同セミナー終了後、博多ベイサイドプレイスより出港するクルージング&レストランシップ「マリエラ」のディナークルーズにて Welcome party を開催した。19:00 から 21:00 までの 2 時間のクルージングであった。アトラクションとして、シンガーソングライター「まるここ」のライブにて国境を越え盛り上がった。

※博多一日観光

台湾一行は旅程の関係上参加できず、韓国 22 名、日本 26 名の 48 名にて行った。韓国一行の宿泊ホテルより貸切バスにて出発し、福岡タワー・マリゾン→博多観光会館（ショッピング）→「ざうお」（昼食）→キャナルシティ（ショッピング）→ホテルにて解散した。

【総括】

今回、前回に引き続き 3 国の代表者にて、ある程度の取り決めを試みた。韓国より MOU の要求があったが、日本、台湾としては形式にとらわれずフランクな会でありたいとする対立があった。毎回、3 国代表者会議を開催して、その都度、次期開催国及び開催日等の協議を行う。しかし、予算に関しては、参加者数および開催国の事情により異なるため、一定の予算基準を決定することは困難である。盛大にすることが第一義ではないため、参加費によって賄う事を基本とした身の丈に合った会を企画する。来年は I A C が東京であるため、一回スキップして 2017 年に台湾にて開催する。年々、この日・台・韓細胞検査士合同セミナーは充実してきており、将来の明るい展望が感じられた。

（文責 南部雅美）

13) 平成 26 年度子宮頸がん検診委員会事業報告

事業報告

1) 運営部

- ①第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（横浜）時に子宮頸がん検診委員会を開き、活動報告、活動計画、審議事項等の議事録作成してホームページに掲載した。
- ②第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（横浜）、第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会（山口）、23 回日本婦人科がん検診学会（大阪）において開催した啓発パネル展の掲示物の保管・配送（保管は学会開催地の委員、輸送先は次回学会場）を行った。
- ③都道府県委員の変更の確認をし、平成 26 年度子宮頸がん検診委員会委員名簿を HP に掲載した。

2) 啓発部

- ①第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（横浜）において学会場、学会翌日の市民公開講座（横浜）にて市民向けの啓発パネル展示を行った。
- ②市民公開講座（横浜）にて、「あなたとあなたの大切な人のために～日本を子宮頸がん予防先進国にするための提言～」で細胞検査士会としての講演と司会を担当した（加藤委員）。
- ③渉外委員会と協力し「NPO 法人子宮頸がんを考える市民」が作成するニュースレターの中で、細胞検査士会の回答者として、中村委員を推薦し掲載された。
- ④第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会（山口）の学会場と市民公開講座にて啓発パネル展示を行った。
- ⑤第 23 回日本婦人科がん検診学会（大阪）にて植田会長よりの依頼で啓発パネル展示を行った。

3) 調査研究部

- ①第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（横浜）において学会場での啓発パネル展示に、一般市民向けアンケートと、子宮頸がん検診の現況調査の集計結果を展示報告した。
- ②第 55 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（横浜）において、「子宮の日 全国アクション 2014

報告会」で一般市民向けアンケートの集計結果を中心に活動報告状況を発表した（八尋委員）。

③第53回日本臨床細胞学会秋期大会（山口）において、啓発パネル展示に、一般市民向けアンケートの集計結果を展示報告した。

（文責 大野喜作）

14) 平成26年度細胞検査士会創立50周年記念事業準備委員会事業報告（資料有）

【事業計画】

6つの小委員会（記念式典準備小委員会、功労賞選考準備小委員会、公開講座準備小委員会、記念誌発刊準備小委員会、検査展準備小委員会、予算準備小委員会）で各企画を詳細に検討する。

【事業報告】

1. 第55回日本臨床細胞学会総会時に各小委員会委員を含めた全体会議を開催。

2014年6月6日（金）11:00～11:40（パシフィコ横浜 会議室424）

出席者：浅見英一、阿部英二、有田茂実、伊藤 仁（アドバイザー）、大田喜孝、
甲斐俊一、河原明彦、郡 秀一、清水恵子、白波瀬浩幸、中村厚志、
羽原利幸、原田仁稔、三浦弘守、三宅真司（15名）

欠席者：加藤 拓、川口詳司、棚田 諭、藤田 勝、藤山淳三、古田則行（6名）

（敬称略、五十音順）

議題

① 業務報告の確認

② 各小委員会の今後の進め方について

- ・ 各小委員会の企画については、30周年と40周年記念事業の内容を確認して、タイムスケジュールなども可能な限り作成する。
- ・ 2017年細胞学会総会の会場が決定してから、具体的な内容が進む委員会もある。記念式典準備小委員会などは、会場近隣の委員を増やす必要がある。
- ・ 功労賞受賞者の選考基準は30周年と40周年記念事業時の基準を確認する。
- ・ 公開講座の具体的な内容（講演名、講師など）については、今後、学術委員会や役員会で検討しながら決めていく。公開講座準備小委員会では過去の公開講座の内容を確認して、大枠を検討する。
- ・ 予算準備小委員会では、30周年と40周年記念事業の会計報告を参考にして50周年記念事業の予算案を見直す。40周年記念事業の収入源となった協賛メーカーを参考にし、各都道府県内の協賛メーカーもリストアップする。

（文責：三宅 真司）

2. 予算準備小委員会より

30周年記念事業と40周年記念事業で協賛ないし広告料など、収入源となったメーカーをリストアップした。

① 30周年記念事業：都道府県別、98社）

② 40周年記念事業：43社

次年度には、都道府県代表者を通じてリストアップした企業・団体に対して協力要請を進めていく予定。

（文責：三宅 真司）

3. 功労賞選考準備小委員会より

50周年記念功労賞選考における素案について

① タイムスケジュール

- 2016年6月 : 各都道府県代表者へ功労賞受賞者推薦の依頼文書提出
 2016年8月末日 : 各都道府県からの受賞者推薦期限
 2016年11月 : 記念盾・契約業者決定（相見積りによる入札）
 2017年3月 : 記念盾・デザイン決定，版下原稿作成
 2017年4月 : 記念盾・発注
 2017年6月 : 50周年記念式典開催（功労賞授与式）

② 功労賞受賞者選考基準

- 1) 細胞検査士資格取得後20年以上細胞診に従事している者。
- 2) 地域活動を行なった経歴がある。または現在行なっている者。
- 3) 長期にわたり細胞診の技術向上・普及に努力し，細胞学会および細胞検査士会の発展に功労があった者。
- 4) 全国レベルの賞（国際細胞学会技師賞，日本臨床細胞学会技師賞，小島三郎記念技術賞，緒方富男賞，福見秀雄賞，金井泉賞）ならびに過去に細胞検査士会，日本臨床細胞学会の功労賞，貢献賞を受賞した者は除く。

③ 選考方法

選考基準に従い，各都道府県別に対象者を推薦・決定し，各都道府県代表者が期限までに功労賞選考準備小委員会へ規定の推薦書を提出する（メールまたはFAX）。

④ 受賞対象者数

- 1) 総数：82名前後を初期設定し，役員会にて微調整を行なう。
- 2) 各都道府県の推薦枠（別紙参照）

⑤ 予算（記念盾作製費用）：800,000円

細胞検査士会50周年記念事業 功労賞推薦リスト

都道府県	会員数 (人)	推薦枠 (初期設定)	調整枠 (+, -)	推薦枠 (最終)
北海道	310	3		
青森県	58	1		
岩手県	59	1		
宮城県	115	1		
秋田県	71	1		
山形県	61	1		
福島県	95	1		
茨城県	117	1		
栃木県	80	1		
群馬県	131	1		
埼玉県	306	3		
千葉県	283	3		
東京都	950	10		
神奈川県	434	4		
山梨県	43	1		
長野県	148	1		
新潟県	147	1		

富山県	72	1		
石川県	88	1		
福井県	45	1		
岐阜県	105	1		
静岡県	168	2		
愛知県	352	4		
三重県	72	1		
滋賀県	64	1		
京都府	203	2		
大阪府	468	5		
兵庫県	295	3		
奈良県	40	1		
和歌山県	33	1		
鳥取県	37	1		
島根県	39	1		
岡山県	145	1		
広島県	185	2		
山口県	114	1		
徳島県	27	1		
香川県	87	1		
愛媛県	60	1		
高知県	24	1		
福岡県	386	4		
佐賀県	45	1		
長崎県	101	1		
熊本県	131	1		
大分県	83	1		
宮崎県	40	1		
鹿児島県	70	1		
沖縄県	79	1		
計	7066	80		

初期設定について

- ・各都道府県、最低1名以上の推薦とする。
- ・会員数100名に1名とし、十の位については四捨五入とする。

(文責：大田 喜孝)

4. 50周年記念誌発刊小委員会より

50周年記念誌についての素案

- ① 30周年記念誌と同様に、記念誌は式典が終了した後の発刊にする。
そのほうが式典の内容も掲載できる。
- ② 各都道府県からの細胞検査士会の歩みを掲載する。
30年史はすでにあるので、最近の20年分に重きを置く内容とする。
- ③ その他
 - 1) 歴代細胞検査士会会長たちが一同に集まり、3つぐらいのテーマについて（過去の良かったところ、将来に期待すること、会長の時に成し遂げたことなど）座談会を行い記事とする。
 - 2) 細胞診断の判定に極めて有用となった細胞所見の写真を掲載する。（論文掲載されたもの）。
掲載の判断は記念誌発行委員会、記念事業委員会委員長、細胞検査士会長で行う。
 - 3) 会員のコメントを一行（50字程度）掲載。内容は問わず、希望者のみ。しかし原則全員に
願う。基本的にインターネットによるフォーマットで提出してもらう。
 - 4) 写真のみではなく、読めるもの、とくに役に立つ情報やトピックスなどが多く含まれたもの
にする。
 - 5) 海外で活躍している細胞検査士のページを設ける。

（文責：加藤 拓）

5. 検査展準備小委員会より

検査展についての素案

- ① 50周年記念事業の実施目的や実施テーマにそった内容にする。
- ② 特に一般の方へ細胞検査士の業務や使命を理解してもらうことが重要だと思われ
るので、早期発見のための検診業務や早期治療・最先端医療に我々がどのように関わって
いるのかをパネル展示・ビデオ上映などにより説明する。
- ③ また外部モニタ付き顕微鏡によりデモンストレーションを行う。
- ④ 開催場所については、学会場近隣の百貨店、ショッピングモールまたは公開講座
会場近辺。

（文責：藤山 淳三）

6. 公開講座準備小委員会より

公開講座についての素案

- ① 細胞検査士の紹介
 - ・子宮がん検診における細胞検査士の役割
 - ・細胞検査士が行っている業務の内容
 - ・各種癌細胞の提示
- ② 検診の重要性
 - ・子宮頸がん検診と早期発見およびその後の治療
- ③ その他
 - ・がん治療について（手術療法、化学療法、放射線療法など）
 - ・子宮頸がん検診で癌を早期で発見された患者さんからのお話
 - ・がんサバイバーの体験談
 - ・乳癌の診断と治療

（文責：羽原 利幸）

【総括】

今年度から各小委員会での企画検討がはじまりましたが、現在まで順調に進行されていると思われます。小委員会委員長の積極的な活動に感謝する次第です。

次の細胞学会で、2017年秋の学会会場が決まるので、その結果から2017年春の学会（大阪）で50周年記念事業を開催するかどうかが決まる予定です。開催時期と場所がきまる次年度からは、各小委員会委員長および委員皆様の力をお借りして、今まで以上に企画準備に拍車をかけていきたいと考えています。

（文責 三宅真司）

2. 平成 26 年度決算報告 (資料-3、4、5)

1) 平成 26 年度会計報告

資料-3. 平成 26 年度会計報告書.pdf

2) (学会作成) 平成 26 年度会計報告

資料-4. 学会作成 平成 26 年度会計報告書.pdf

3) 平成 26 年度監査報告

資料-5. 監査報告.pdf

3. 平成 27 年度事業計画 (案)

1. 本部

(目的)

会員の細胞学的知識の向上、技術の研鑽ならびに、公益社団法人日本臨床細胞学会事業に協力し、細胞検査士の社会的地位の確立を図ることにより社会への貢献を図る

(予定・計画)

- ①各委員会事業の計画、実施、進捗の管理
- ②各委員会事業の結果を会員へ報告
- ③公益社団法人日本臨床細胞学会の動向を会員へ報告
- ④総会の開催（1回/年以上）
- ⑤役員会の開催（2回/年以上）
- ⑥委員長会議の開催（1回/年以上）

(会の公益活動推進)

- ①『子宮の日』の活動をはじめとする会の公益活動において、その活動内容を公益社団法人日本臨床細胞学会に報告し理解を求める
- ②細胞検査士が主体となる新たな公益活動を実施（模索）する
(公益社団法人日本臨床細胞学会事業への協力)
 - 1) 各種委員会会務への協力
 - 2) 細胞検査士ワークショップの協力
 - 3) 学術集会への協力
 - 4) 細胞検査士資格認定試験実施の協力
 - 5) 細胞検査士養成事業協力

2. 総務委員会

① 細胞検査士会総会、役員会、委員長会議の運営。

(H26 度実績：総会;1 回、役員会;3 回、委員長会議 ; 3 回)

* 今年度は新規の委員会として運営が始まり臨時の総務委員会の必要が予想されるため交通費など必要な経費を計上。

- 1) 各部門からの事業計画と事業報告の収集・管理
- 2) HP からの会員質問に対する対応
- 3) 細胞検査士個人、委員、役員などからの提案事項の各委員会への振り分け
- 4) 委員長会議の開催地の決定および議案書作成

(文責:委員長 片山博徳)

3. 経理委員会

1. 予算書の作成
2. 各委員会からの会計業務を調整し、学会へ会計の施行を依頼
3. 収支決算書の作成
4. 監査を受ける
5. 会計に関係する資料を学会へ送付
6. 役員会で予算・決算の報告・説明、総会および会報などにて要約した会計報告を行う
7. 備品台帳の作成・保管.

(文責:委員長 大塚重則)

4. 庶務委員会

各種委員会への委嘱状発送、各種委員会会議出席依頼状発送、学術会講師・座長等本人および施設長への依頼書発送 総会議案書作成.

(文責:委員長 仲村 武)

5. 規約委員会

各委員会からの要望を受け、本法人規則類に準じて細胞検査士会規則類の議案作成を行い、役員会、総会の決議によって定められた規則類を管理する。

(文責:委員長 平田哲士)

6. 渉外委員会

1. 子宮の日の活動：2015Love49 プロジェクト
2. 平成 26 年度細胞検査士会公益広報活動調査（啓発・社会事業と育成・養成事業）
3. 子宮の日全国アクション-2015 報告会（日本臨床細胞学会総会；松江）
4. 日本臨床細胞学会総会および秋期大会（6 月，11 月）におけるパネル展示
5. 日本子宮頸がん予防・啓発連絡会議への参加とがん患者大集会の会場協力
6. 細胞検査士会ホームページへの Love49 活動関連ページへの取り組み

(文責:委員長 河原明彦)

7. 編集委員会

細胞検査士会報発行 第 58 号細胞検査士会報（平成 27 年 10 月発行予定）。
第 59 号細胞検査士会報（平成 28 年 3 月発行予定）

(文責:委員長 上野喜三郎)

8. 学術委員会

(非収益事業)：学術会議（総会時）、第 1 回セミナー会議、第 2 回セミナー会議、
地方支援 WS
(収益事業)：WS 口腔領域（第 1 回）、WS 口腔領域（第 2 回）、養成 WS（第 1 回）、
養成 WS（第 2 回）

(文責:委員長 竹中明美)

9. 国際委員会

第8回日・台・韓細胞検査士合同セミナーを計画しています。現在のところ開催国は決定していませんが、過去の経緯から考えると台湾の可能性が高いと思われます。

(文責:委員長 南部雅美)

10. 情報委員会

- 1) ctjsc.com (細胞検査士会 HP) CMS システム保守と運用
- 2) 求人情報コンテンツのサイト内管理の構築
現在、求人情報は外部リンクを利用して構築しており、同サーバーでの管理運用ができるように改修する。
- 3) intercyto.com (インターネットサイトロジー HP) サーバー移行と再構築
当サイトの CMS システム化と 11 月リニューアル公開を目標に実施。
- 4) intercyto.com の運用について
今後のデータ更新と運用プランニング。

(文責:委員長 小川勝成)

11. 都道府県代表委員会

1. 都道府県代表者会議

- ① 全国の細胞検査士の連携を目的として、都道府県代表者会議を年 2 回、学会前日夕方に開催する。
- ② 会議は年 2 回の都道府県代表者会議のほかに、必要に応じて電子媒体にて行う。
- ③ 毎月、定期的連絡を ML にて行う。④ 連絡事項は、細胞学会・細胞検査士会からの情報の送受信やアンケート依頼などを行う。(個人的なものは行わない)

2. 都道府県代表者委員会

- ① 原則的には、年 2 回の日本臨床細胞学会時の昼休み中に開催する。
- ② 都道府県代表者会議 (年 2 回、学会前日の夕方) の準備・資料印刷を行う。
- ③ 都道府県代表者会議の受付・進行と議事録作成。
- ④ ML を活用し、細胞学会・細胞検査士会の情報送受信・アンケート回収・選挙の連絡等を行う。

(文責:委員長 小松京子)

12. あり方委員会

- 1) 細胞学会での会員資格の選択と、その理由に関するアンケート調査
- 2) 細胞検査士の方向性についての検討

(文責:委員長 古田則行)

13. 精度保障委員会

- 1) 細胞検査士教育セミナーでの Self Assessment Slide 作成
- 2) 細胞診標本作製マニュアルの改訂および新規作製、それに伴う各マニュアル別の小委員会の設置および会議等

(文責:委員長 服部 学)

14. 子宮頸がん検診委員会

【運営部】

- ① 第 56 回日本臨床細胞学会総会にて、子宮頸がん検診委員会を開催し、議事録を作成する。
- ② 展示資料の利用規定に基づいた資料作成 (提出)、および資料を有効に利用できるように一括管理する。
- ③ 当委員会メーリングリストを活用し、今後の啓発活動、調査研究活動および子宮頸がん委員会のあり方等を委員全体で考えていく。

【啓発部】

- ① 第56回日本臨床細胞学会総会で、学会会場・市民公開講座において啓発パネル展示を行う。
- ② 第54回日本臨床細胞学会秋季大会で、学会会場・市民公開講座で啓発パネル展示を行う。
- ③ 要請があれば、細胞学会以外の学会（婦人科がん検診学会等）でも展示を行う。
- ④ 新たに一般市民向けの子宮頸がん検診の啓発ポスターを作成する。

【調査研究部】

- ① 子宮頸がん検診において過去にさかのぼり、全国調査（精検結果含む）を行い、集計結果を報告する。
- ② 子宮頸がん検診啓発活動（LOVE49 他）における一般市民アンケートを実施し、その集計結果をまとめる。
- ③ 全国の子宮頸がん検診の現況（細胞診断、採取器具等）を把握し、今後について考える。
- ④ 上記のいずれも啓発活動パネル展示においてパネルを作製して、細胞学会と検査士会にて報告をする。

（文責：委員長 大野喜作）

15. 細胞検査士会創立 50 周年記念事業準備委員会

6つの小委員会（記念式典準備小委員会、功労賞選考準備小委員会、公開講座準備小委員会、記念誌発刊準備小委員会、検査展準備小委員会、予算準備小委員会）で、引き続き各企画を詳細に検討する。

4. 平成 27 年度予算（資料-6）

資料-6 平成 27 年細胞検査士会予算案.pdf

5. 監事の選任

6. 各委員会提出議案

1) 細胞検査士会創立 50 周年記念事業準備委員会

- (1) 50 周年記念事業の開催時期・場所について
2017 年秋期大会の会長と場所が決定したら、2017 年春の大阪と比較して開催時期・場所を決める。
- (2) 積立金の増額について
積立金は最終的に 900 万円になる予定で、50 周年記念事業の予算案（1250 万円）の 70%にあたる。残り 30%は参加費や企業の協賛金・広告料などの予測がむずかしいお金に頼ることになる。そのため積立金の増額が可能であるか、経理委員会と検討する。

2) 経理委員会（資料-7）

- (1) 会計に関する細則
- (2) 会計に関する運用細則
- (3) 各委員会の会計処理要綱
- (4) 経理委員会会計処理要綱